

## 放送を巡る諸課題に関する検討会 新たなCAS機能に関する検討分科会 (第2回) 議事要旨

### 1. 日時

平成31年2月28日(木) 10時00分～11時15分

### 2. 場所

総務省第1会議室

### 3. 出席者

#### (1) 構成員

中村分科会長、内山分科会長代理、甲藤構成員、谷川構成員、三尾構成員

#### (2) 説明者

一般社団法人電子情報技術産業協会 AV C部会 井上業務執行理事

パナソニック株式会社 アプライアンス社 瀧上副社長AV C事業担当

日本放送協会 経営企画局 中村専任部長

一般社団法人日本民間放送連盟 堀木事務局次長兼企画部長、高田専任部長

株式会社BS日本 樋口技術局長

一般社団法人 衛星放送協会 西山事務局長、鶴飼技術委員会 副委員長

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟 高木CAS事業部 部長

#### (3) オブザーバー

一般社団法人衛星放送協会、主婦連合会、公益社団法人全国消費生活相談員協会、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟、株式会社ビーエス朝日、株式会社BS-TBS、株式会社BSテレビ東京、株式会社BS日本、株式会社ビーエスフジ、内閣府、経済産業省

#### (4) 総務省

山田情報流通行政局長、奈良大臣官房審議官、岡崎情報流通行政局総務課長、湯本同局放送政策課長、柳島同局放送技術課長、渋谷同局情報通信作品振興課長

### 4. 議事要旨

#### (1) 関係者からのヒアリング

・一般社団法人電子情報技術産業協会 AV C部会 井上業務執行理事から「テレ

ビメーカーの取り組み」【資料2-1】に沿って、説明があった。

- ・パナソニック株式会社 アプライアンス社 渚上副社長AVC事業担当から「当社受信機におけるCASの状況」【資料2-2】に沿って、説明があった。

2者の説明に対して、主に以下の質疑応答が行われた。

#### 【谷川構成員】

パナソニックの説明とJEITAの説明は時間的なタイミングが違う内容になっていると思う。JEITAは、新しく開発するものについて、今は何もしないほうがいいよという話。パナソニックは、今の方法で費用負担の持ち方を変えたほうがいいという説明だったと思う。特に私自身は、受益者負担でB-CASと同じ方法にするというのはわかりやすく聞こえたが、実際それはどのような課題が残っていると考えるとよいか。

#### 【パナソニック】

我々としては、このあたりは取り決め、あるいは過去の検討経過の中で軌道修正ということから、関係者で合意がとれれば、大きな課題はないと認識している。

#### 【中村分科会長】

故障時の対応が1つの論点になっていると思う。B-CASにしろACASにしろ、テレビがうまく見られなくなったという不具合は、視聴者から見て、CASが原因と分かるのか。視聴者としてテレビが映らない時は、メーカーや買ったお店にお願いをして来てもらうことになるのが普通だと思う。ここが不具合とわからなかった場合、コストはあまり変わらないという気がしたが、実態はどうか。

#### 【パナソニック】

まずB-CASの場合、当社においては、不具合の電話をお受けしたときに、お客様にエラー表示メッセージの確認や、カードの抜き差し等をお願いして、一次対応をしている。5日以上の日数を要さず、電話の中で解決できる可能性があるが、今回のACASにおいてはその対応の部分で、もしここが原因とわかっても、部品交換や訪問修理で対応しないといけないところに、大きな違いがあると認識している。

- ・日本放送協会 経営企画局 中村専任部長から「日本放送協会資料」【資料2-3】に沿って、説明があり、主に以下の質疑応答が行われた。

#### 【谷川構成員】

最後のところの動画配信サービスのテレビへの実装が進む中でというところで、各放送事業者との関係をもう少し詳しくお話いただけないか。

#### 【日本放送協会】

特にリモコンの姿に象徴されるが、例えば、YouTubeやNetflix等の、ワンボタンで動画配信サービスにたどり着くような形が出てきている。私どもは2000年から始まったデジタル放送の普及のため、業界団体を通じた取り組みとして、チラシや番組の広報誌と一緒に普及活動を行ってきた。あわせて受信方法、最近では右旋円偏波並びに左旋の導入について丁寧に説明する取り組みを行っている。そのような取り組みの中で、お客様から見ると、サービスの選択肢が広がっているということを説明している。インターネットを活用したビジネスが世界中のコンテンツホルダーからテレビに提供されている状況がある。

RMPとCASについて、一緒になってやるところとそれぞれ競い合うところがあると思うが、通信と放送の融合という動きが、まさにリモコンの状態に象徴されている。そういう選択肢が広がる中で、効率的、効果的にお客様へサービスを提供し、訴求していくことが必要ではないかということ。

・一般社団法人日本民間放送連盟 堀木事務局次長兼企画部長から「日本民間放送連盟」【資料2-4】に沿って、説明があった。

・株式会社BS日本 樋口技術局長から「BS日本資料」【資料2-5】に沿って、説明があった。

・一般社団法人 衛星放送協会 西山事務局長から「有料放送のCAS利用」【資料2-6】に沿って、説明があった。

・一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟 高木CAS事業部部長から「ケーブルテレビでのCAS利用」【資料2-7】に沿って、説明があった。

## (2) 意見交換

・全体を通じた、説明内容、検討事項に関して、主に以下の意見交換があった。

#### 【主婦連合会】

ケーブルテレビ連盟の方に質問がある。セットトップボックスにACASチップ、B-CAS機能とあるが、テレビとセットトップボックスで機能が重複していると思うが、どのような整理になっているのか。

#### 【日本CATV連盟】

セットトップボックスの通常出力は、テレビの受像機のHDMI端子に接続して

利用することになる。直接的にはテレビのCASの機能は使用せず、セットトップボックスの機能を使用する構造となっている。

【主婦連合会】

ケーブルテレビの多チャンネルとテレビ放送の両方を受信している場合は、それぞれで使い分ける。同じ機能だが、別々の機械でそれぞれの機能を使い分けるということか。

【日本CATV連盟】

切り替えによる利用も可能とは思いますが、通常はセットトップボックスの中に、多チャンネルの受信チューナーの設備と通常の再放送、いわゆるアンテナで受信する放送のチューナーも搭載しており、両方をこの1台で、テレビを見られるようにする装置になる。

【主婦連合会】

ありがとうございました。使わないということがわかりました。

【日本CATV連盟】

1点だけ補足させていただくと、4Kの実用放送が始まったが、チューナーが搭載されていない4K対応テレビというものが販売されており、その場合は、テレビ自体にチューナー及びCAS機能がついていないため、セットトップボックスを介して、セットトップボックスのチューナーとCAS機能を使用して視聴するケースもある。

【内山会長代理】

パナソニックさんに質問がある。パワポの4ページ目で、視聴者負担を軽減する方法として、方策1と方策2という形で出されている。方策1に関しては、その後のプレゼンの中で、(コンテンツ保護の機能と識別機能の)分離という機運じゃないという意見が多かったが、パナソニックさんとしては、方策1、方策2のどちらにウエートを置いているのか。

【パナソニック】

方策1を実現するには、メーカーは多額の開発費と時間が必要だと思う。現状CASが市場に導入された中で、検討が必要と考えている。次世代の新たなCASが検討をされるときは、メーカーとして前向きに検討していきたい。方策2は比較的可変性が少なく、スキームというところであるため、議論は比較的進みやすいと考

えている。

**【主婦連合会】**

BS日テレの方に質問がある。2ページ、3ページの緑と赤で塗り分けた部分について、赤はコンテンツ保護だけ使用していて、緑はNHKと有料放送が使用している。この緑のうち、NHKはメッセージ機能だけを使用していると思うので、NHKを除いた、有料放送を受信している世帯は、割合的に多くないと思っている。有料放送を契約している世帯は全体のどれぐらいの割合になるか。

**【BS日本】**

BS民放無料事業者は、有料放送の契約世帯数に関しては把握をしていない。

**【衛星放送協会】**

先ほどケーブルテレビの話もあったが、衛星放送の信号というのは、ケーブルテレビも含めて配信されている。いわゆる有料多チャンネル放送という意味で、おおよその数字になるが、約1,000万世帯が視聴していただいている。

**【主婦連合会】**

20%程度か。

**【衛星放送協会】**

5,000万世帯ということであれば、20%程度になる。

**【中村分科会長】**

私個人の受けとめ方としては、コンテンツの保護の機能と識別機能を分離するかどうかというのが大きな論点としてあって、それを検討する要素としては、コスト負担をどうするのか、故障対応をどうするのか、それをどう考えるのかということが、明らかになってきたと思う。要するに、コストの問題が大きい。本日、パナソニックさんにCASのコストを提示いただき、具体的に検討するイメージが出てきたと思う。そして、サービスに関わっている提供側の皆さんのご意見としては、それを分離するのは難しい、ないしは不要だと受けとめた。また、そこで、JEITAさんや民放連さんなどからは、地上波の4Kのような新しい放送に向けてどう考えるのかという方向性も指摘をいただいた。関係者同士連携をすとか、協力するという姿勢をお見せになっているということだろうと思う。これらを踏まえて、次回以降掘り下げていきたいと思う。事務局には今後の運営等に本日出ていたさまざまな情報等を整理していただいて、反映をしていただければと思う。

(3) その他

- ・事務局より次回会合についての案内があった。